

# よりよい音楽表現をするための言語活動とその評価 ～自分の思いを自分の言葉で伝えられる生徒を目指して～

音楽科 鏡 千佳子

## 1. テーマ設定の理由

音楽科は23年度、本校の研究主題である「新学習指導要領における指導と評価の一体化を目指して～言語活動に着目した評価のあり方～」を受けて、歌唱・器楽・創作・鑑賞の全ての分野において、生徒自身の音楽表現を充実させるために有効な言語活動を取り入れた授業の実践を行ってきた。しかし研究を進めていく中で、自分の意見や考えを相手に伝え、また相手の意見や考えを取り入れ、音楽表現をさらによいものにしていく場面の設定があまりないということに気づいた。歌唱では、全体の授業であったため、個々の考え方などをあまり吸い上げることができず、鑑賞では、個々の思いや考えに留まってしまい、自分の考え方を感じたことをお互いに伝え合い、共有するという場を設定することができなかった。そこで24年度は本校の研究主題である、「思考力を育む指導と評価～言語活動を通して～」を受けて、昨年度に引き続き、「よりよい音楽表現をするための言語活動とその評価」を継続して研究を行うとともに、「自分の思いを自分の言葉で伝えられる生徒を目指して」という副題を設定した。

本校の研究主題にある「思考力」とは、「学習活動の中で設定されたり生じたりするさまざまな学習課題に対し、既習の基礎的・基本的な知識・技能をさまざまな方法で思考する力」（本研究紀要研究部総論（2）本年度研究の方向性より）つまり、習得したことを活用する力であるので、既習のものから自分なりの表現方法を見いだし、それらを自分の言葉で伝えられる場面の設定が必要である。さらに、友達とのコミュニケーションを通して生徒がどのように変容していくか、そして自分たちが目指す姿、目標に近づくために、いかに思考していくのかを見取ることのできる授業を考えていくことが必要であると考えた。自分の思いを自分の言葉で伝えるためには、まず自分がその楽曲に対してどういう思いや感情を抱いたか、またどのように音楽表現をしたいか、など、受動的ではなく主体的に音楽と向き合うことが重要である。学習活動に対して、生徒自身が自ら学びたい、表現したいと思える授業を考えるとともに、個々の思いや考えを伝え合い、さらによりよい音楽表現になるよう、有効な話し合いの場や発表、意見交換などの場を設定し、生徒の変容を見取ることのできる授業を開拓し、研究に取り組んだ。

## 2. 思考力を育むための指導と評価

音楽科では表現領域と鑑賞領域の二つがあるが、それぞれの領域で思考力を育むために次のような指導と評価に取り組んだ。

### （1）表現領域で特に育みたい思考力とその評価

（歌唱）技能の面では曲種に応じた発声や歌う際の呼吸法、姿勢や体の使い方など、様々なことを活用して歌うことができるようとした。また、お互いの発表を聴き合うことで、自分たちにないものを認識し、さらに発展できる場面の設定もした。自分と他者とを比較して、学びあえたか、自分の歌がどのように変容したかをワークシートなどで見取る。

（器楽）本校では、一年時と二年時にアルトリコーダー、三年時はギター、そして三年間通して箏を扱う。アルトリコーダーでは基本的な運指はもちろん、曲種に応じてタンギングやサミ

ング、息づかいやなど曲の雰囲気を感じ取ってどのように演奏すればよいのかを自分で考えて演奏できるような授業の展開を試みた。また、歌唱と同様、お互いの音を聴き合い、高めあえる場の設定もした。ギターでは基本となるコード（C, D, G, E m）を使って演奏したり、曲種に応じてアポヤンド奏法やアルアイレ奏法などで弾き分けられるようそれぞれの奏法を詳しく学習した。箏では一年時で学んだ基本的な奏法を基に二年時ではそれらを生かした創作、三年時にはその他様々な奏法を生かした演奏ができるように指導をした。

（創作）拍子やリズム、速度などを工夫し、自分が表したいイメージや思いを表現できるようにできるだけ考えを具体的に示させたり、リズムの例を表示し、実際にリズムを打ち、記譜の仕方を示した。また、音楽に関する用語や記号などを適切に用いて記譜したり、演奏する力も同時に身につけられるように指導した。

#### （2）鑑賞領域で特に育みたい思考力とその評価

学習してきた〔共通事項〕音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などを知覚しながら、曲のよさや自分にとって価値がある理由や根拠を説明できる力をつけさせるために授業中に意見交換をする場を設定したり、参考となる生徒の批評文などを掲示しフィードバックした。

### 3. 指導の実践

#### （1）1学年での実践（表現領域・創作「特別教室のテーマソングを創ろう」）

入学してから半年ほど経ち、中学校生活にも慣れてきた11月に、校舎内の特別教室のテーマソングを創る活動を行った。生徒は四人一組で決められた教室のテーマソングを創る。曲を創作するにあたって、次のルールを教師側で設定した。

- ・4小節で創る。
- ・教室の一番伝えたいことを歌詞にする。
- ・歌って発表するので、歌える高さの音域で創る。

これらのルールの中で、生徒たちがどのようにグループで話し合い、テーマソングを創り上げていくのかを見ることにした。創作を始める前に、いくつかCMソングを例に挙げて説明した。短い中に、いかに伝えたいことを入れ、かつ印象づけるものになっているかを生徒自身が実感したこと、自分たちが今からどういうものを創るのかというイメージが少しあわいてきたようであった。

1年生は7月に5人1グループで、リズム創作を行っている。ただし、このときは自分たちで題名を考え、その様子をリズムだけで表すといったもので、旋律をつけたり、歌詞をつけたりはしていない。今回、たった4小節とはいえ、教室の特徴を捉え、歌詞と旋律を考えるということは1年生にとって難しい課題であったことは間違いない。生徒の中にも「自分たちでできるかなあ」といった不安の声が多くあった。しかしざ始めてみると、ああでもない、こうでもないとグループ内で盛り上がる姿が見られた。また最初に自分でいくつか考え、それらを持ち寄って話し合うという形をとったので、それらのいい部分を組み合わせて創り上げるグループもあれば、作品の中でいいものをそのまま採用するといったグループもあった。どちらにしても、自分たちが担当する教室の特徴を4小節内でいかにインパクトを与えて伝えられるかをよく考えて創っていたように思う。

ただし、今回は発表も含めて4時間という短い時間しかなかったため、他の作品を聴いてさらに工夫するという時間をとることができなかつた。

## 《生徒のワークシートより》

※アンダーラインは活動を通して学んだことと次に生かそうとしている部分

○一人では考えがうまくまとまらなかつた部分を、班のみんなで考えていい曲になつたのでよかつた。みんなの発表を聴いて、自分たちの曲をもう少し遅く歌つたほうがよかつたかなと思った。今回は4小節という短い曲だったけれど、次回はもう少し長い曲を作る場合に、このことをいかせたらいいなと思った。

○ぼくは自分でイメージした曲を音符で表すのが得意ではないのですが、歌詞やリズムのアイディアをできるだけ多く出しました。それで、自分の歌詞のアイディアが採用されました。たつた4小節の中に伝えたいことを伝え、さらにそれを印象づけるための斬新なリズムとメロディーを考えるのが思つていていたよりずっと大変でした。これからは身近なCMなどの音楽にも耳を傾けたいと思った。

○作曲してみて、どうしたら楽しくなるか、どうしたら聴いている人に伝えたいことが伝わるかいろいろ考えて作曲できたので良かった。

○職員室のテーマ曲をつくってみて、改めて職員室について考えることもできました。それと、作詞作曲はそんな簡単なことではないと感じました。頭の中に出てくるちょっとしたリズムをたくさん並べるとは話が違つて、歌詞に音をつけるにも、歌詞にあった音、リズム、イメージを考えなければならぬとわかりました。そう考えると、曲はもちろん、CMソングも考えに考え創られた立派な作品で、人の考えが入った著作物なのだと思います。大変でしたがまたやってみたいです。

○もっと手の込んだ歌詞を考えれば良かったけど、メロディーは歌いやなくて楽しいものになつたので良かった。他のチームのテーマソングはどれも面白くて覚えやすいテーマソングばかりだったので、次に機会があれば、これを参考に創りたいと思った。自分たちでつくったテーマソングを練習しているときはみんな楽しそうだつたし、うまく歌えたのが良かった。

○他の班の曲を聴いて、自分の班にはないものがたくさんあった。リズム、テンポ、音域、歌詞などは自分の班の遅くて平らな感じとは逆のものが多くた。それも、この班の特徴だと思うし、美術室のどこか優しいところでもあったと思う。

○自分たちで歌詞、音符などをゼロから考えることは一人ではあまりアイディアが出てこないけど、他の人の意見を聞くことにより、様々な発想が合わさり、良い作品ができたと思った。

生徒の感想から、自分たちで作曲してみたことで一から創り上げることの難しさを実感したようだつた。他の作品と自分たちの作品と比べることでお互いの良い部分を見つけやすくなつたり、身近な音楽にも耳を傾けてみようという思いが生まれたこともわかつた。また、一人ではできなかつたという感想もたくさんあつた。様々な考えを持ち寄ることで新たな考えが生まれたり、自分だけでは思いつかなかつたことも出てくるなど、グループ活動ならではの良さが実感できた活動だつたと思う。しかし、時間が短かつたこともありせつかくお互いの作品で相互評価をしたのにも関わらず、それらを自分たちの作品に生かしてさらによい作品にすることができなかつたので、中途半端な気持ちになつた生徒も少なからずいた。創作活動を行う際は時間の確保が必要であると実感した。

《各クラス最優秀作品》

1組

さくひん さまざま あります びじゅつ

2組

なつはあつくて ひやはさむくて すじレにくいの アリーナ

3組

いつも おんがく あがれてる おんがく

4組

じっけん するなら いかんがりかし

各クラスで歌って発表し、一番良かったと思う作品に一人一票投票するという方法で最優秀作品を選んだ。純粋に作品だけで評価するとなると基準が難しい部分もあると思い、選ぶ基準を細かく設定しなかったため、選んだ理由の多くは「しっかり発表していた」「堂々と歌っていた」など、発表の仕方で選んでいる生徒が多かった。ただ、生徒の反省には、「発表する際にしっかり歌っていないとせっかくの作品も伝わらないので、恥ずかしがらいで歌った方がいいと思った」という学びをした生徒も多くいたので、教師側が意図したねらい以外にも生徒自身が学ぶ場を見つける姿も見られて良かった。

(2) 2学年での実践（表現領域・歌唱「クラス内対抗ハモ属」～ふるさと選手権～）

これまで合唱や齊唱という形で歌唱の授業を行ってきた2年生だが、全員での歌唱となるとどうしても人に頼ってしまったり、歌わない生徒も出てきてしまう。2年生という思春期真っ只中の生徒にとって、しっかり声を出して歌うという行為は容易ではない。だが、ここで一人一人が歌うことの重要性を実感することで、来年度の合唱コンクールや、日々の集会での校歌においても、さらなる合唱が期待できると考え、アンサンブルでの歌唱の授業に取り組むことにした。

教材は教科書に全校合唱の歌として記載されている「ふるさと」。1グループ12人で音楽表現を工夫しながら自分たちだけの「ふるさと」を歌い上げる。今回は少しハードルを上げて、アカペラで歌うことの不安とアカペラ



で歌うことの難しさを感じながらも、なんとか形になるようにそれぞれのグループが試行錯誤しながら歌う様子が見られた。また、金沢大学の学生(合唱団員)の方たちに協力してもらい、アンサンブルで数曲披露してもらう場を設定した。生徒たちと同じ人数、同じ男女比率(ソプラノ:アルト:男声=3:3:6)で歌ってもらったことで、自分たちとの違いに驚きの声があがつた。「自分が今まで歌っていて上手だと思っていたが、全然レベルが違った。」「自分たちとは違うものに思えた。」など、少人数で歌うという意識が大きく変わった体験となった。

#### 《生徒のワークシートより～金大合唱団の演奏を聴いて～》

※アンダーラインは、合唱団員からの学びと、次に生かそうとしている部分

○アカペラの生演奏で歌声がまとまって一つになって伝わってくるのに、一人一人が自分の声を響かせていました。本当におなかの底から声を出している感じがして、すごかったです。各パートでハモっていて、とてもきれいでした。私たちも歌っている「ふるさと」も、私がうまく歌えない部分がすごくひびいていて、こんな風に歌いたいと思いました。歌うことを楽しんでいるなと思いました。顔も明るい感じで歌っていて、聞いている私もすごく気持ちが良かったです。ただ歌うだけでなく、表情でも歌の伝わり方が変わるので明るく歌いたいと思います。各パートの音を聞いて、一緒に歌おうとしていたので自分で歌うのではなく歌声を一つにして合わせようとしたいと思います。

○僕は今回初めてアカペラの歌の合唱を生で聴きました。それぞれのパートが個々でなく一体になっていてキレイでした。自分たちの合唱では全然比べものにならないけど少しでも近づけるように頑張りたいです。歌う歌によって印象がガラリと変わってすごかったです。「エール」から「トリのようにリスのように」変わったときの印象の変わり方が一番急で驚きました。「エール」のソプラノ、アルトパートが主旋律で歌っているときはまるで一人の人が歌っているかのようでした。今回はとてもよい体験をさせてもらったと思います。今回は一人の人が大きい声を出すのではなく周りに合わせてやるとキレイに聴こえるんだと思いました。

○はじめのプレスから最後ののばすところまでのすべての息がぴったり合っていて、“音楽っていいなー”と改めて感じました。また、一人一人が自分のパートをしっかりと、楽しそうにのびのびとうたっていたところにひきつけられました。大学の合唱団のみなさんが歌っているときに私たちが今練習している「ふるさと」について少し考えていました。お互いの声を聞きあっていか?自分のすべてを出せていたか?なにより、楽しんで歌えているか?まだまだ、改善すべき点がたくさんあるということに気づかせてもらいました。少しでも、聞いている人に感動を与えられるよう、もっと工夫していきたいです。

一生懸命に取り組むことの大切さ。みんなで1つのものをつくり上げていくことの大切さを学びました。



《生徒のワークシートから～発表後～》

アンサンブルをしてみてどうでしたか。アカペラで歌うこと、少人数で歌うこと、イメージをもって歌うこと、それを表現すること、今回の練習をふまえて来年の合唱コンクールにいかしたいことなどを書きましょう。

「アカペラ」と、声のハーモニーがとても大事になるので、歌う時の声の大王さや音程などとか、とても大事だと思いつた。また、歌う時のイメージをしっかりと意識してみるとことで、曲の部分について伝わり方が違う、イメージを全員で統一してみると、伝わり方がより一層強くなることを分かった。歌うときは、楽譜はあまり見ず、前を見て堂々と歌う方が良いと思った。声をのどから出す声はハーモニーを作りにくいためか、ないので、お腹の奥底からやさしい音を出す感じで歌いたい。

来年の合唱コンクールでは、1・2年生にはおせない大のやエしい声で、王手にはハーモニーをつくりたい。強弱も「ちょっとハイハイ」で、2つ2つくらいに分けて、歌にこめらみで音の味を作りたい。



アンサンブルをしてみてどうでしたか。アカペラで歌うこと、少人数で歌うこと、イメージをもって歌うこと、それを表現すること、今回の練習をふまえて来年の合唱コンクールにいかしたいことなどを書きましょう。

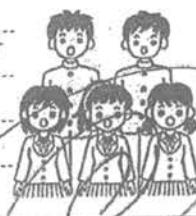
アカペラで歌うとリズムがすぐとりにくいで、まわりと合わせるのが大変でした。でも意識的に、音を最後までのばして拍がくらわないように努力することをやってきたので、進歩したと思います。少人数で歌うと、一人一人の声が大きく影響するので最後まで集中して歌わないと、ハモりません。少人数で歌うとハモりがまとめてよく聴こえました。でも、表現することに力を入れることができなくてかたないので、来年の合唱コンクールでは、特に力を入れたいと思います。強弱だけではなく、他にも様々な工夫をしたいです。工夫をするためには基本ができないといけないので、声を出すことを忘れないことがしたいです。



アンサンブルをしてみてどうでしたか。アカペラで歌うこと、少人数で歌うこと、イメージをもって歌うこと、それを表現すること、今回の練習をふまえて来年の合唱コンクールにいかしたいことなどを書きましょう。

アカペラはテンポを合わせるのがとても難しかった。少人数では1人1人の声は聴きとりやすいが、1人が崩れるとみんな崩れてしまつというもう1点もある。（その分修正もしやすい。）アカペラは自分たちが持っている歌のイメージをいかに少人数で表現するかそれが一番重要なことである。他のグループはとても工夫がほどこされていて、よかったです。自分だけでは発見できなかった表現の方法を見つけたことができたので、参考になった。

合唱コンクールでは今回発見した色々な表現の仕方をとり入れてみたいと思う。楽しく歌うこともできたのでよかったです。また別の曲でしてみたい。



#### 4. 成果と今後の課題

今回の授業実践を通して、歌唱・創作共に、生徒同士または他の演奏から学び、個々の変容を見取ることのできる場の設定ができたように思う。歌唱の授業ではクラスを3グループに分けたことで、一人一人の考えを吸い上げることができ、自分の意見や考えを述べている生徒の姿が見られた。また、それぞれのグループの発表を聴き合うことで、自分たちにはない工夫の仕方や、歌う際の留意点などを教師側からだけでなく、自分たちで学ぶことができたように思う。さらに、大学生の歌声を聴く機会を設けたことで、さらなる高まりを求めたり、表現に磨きをかけようとする姿が見られたので大変良かった。創作の授業ではさらに4人1グループにしたことで一人一人の思いや考えが出しやすくなり、活動が盛り上がっていた。しかし、時間が少なかったこともあります。お互いの作品を聴き、高め合うことはできたが、できれば中間発表をし、学んだことを生かしてさらによい作品を創る活動の場を設定したかった。今後も生徒同士が学んでいけるような授業を考えていくように努力していきたい。

